

第1回 ウオーカブル推進協議会

日時 令和8年1月13日（火）午後2時～

場所 福島市市民センター 3階 314会議室B

次 第

1. あいさつ

2. 委員紹介

3. 会長及び副会長選出

4. 議 事

- (1) ウオーカブル推進協議会について
- (2) まちなかの現状と他都市の事例について
- (3) 意見交換

5. その他

6. 閉会

第1回 ウォーカブル推進協議会

2026.1.13 火 14:00-15:40

駅東西一体のまちづくり

■県都の顔として駅周辺全体の価値を高める



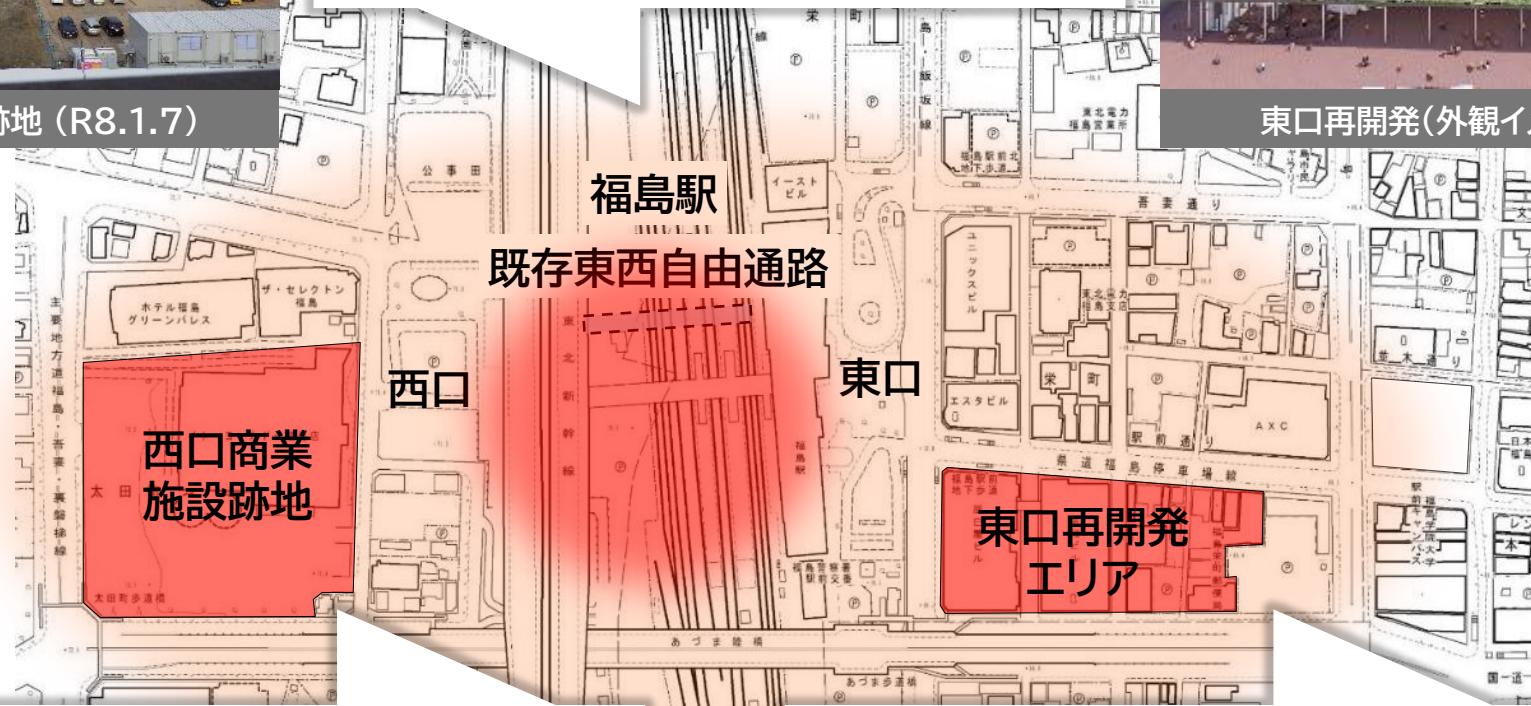
西口商業施設跡地 (R8.1.7)

駅東西を一体的に捉えた回遊性を意識した計画を検討。

- ① 東西の連携強化に向けた**新東西自由通路**の整備
- ② 交通結節機能が集中する**東西駅前広場**の再構築



東口再開発(外観イメージ)



建物解体は3月末完了予定で進められており、その後の民間による土地利用を期待。
市は、土地所有者(民間事業者)の意思を尊重する立場に立ち、
関係者とコミュニケーションを図る。

下記を踏まえ再整理の内容を検討中。

- ① 市民による日常的な利用
- ② 物価上昇により増額が想定される事業費の妥当性
- ③ 10年後の福島市の姿

1. ウオーカブル推進協議会について

■ ウオーカブル推進協議会の目的

- 駅東西の回遊性向上による「人が集まる」「人が流れる」まちづくりを目指し、居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成を図るため、ウォーカブル推進計画の策定に向けた協議を行う。
- 各種調査や取り組みなどの情報を共有し、ウォーカブル推進計画の記載内容、ウォーカブルなまちづくりに向けた戦略について協議し、地域との合意形成のもと決定していく。

まちみらいセミナー

- 他都市の事例を勉強
- 未来のイメージを共有



まちごとデザイン戦略会議

- 具体的アクションの検討

※ 現プレイヤーや、勉強会で発掘した
プレイヤーを目指す人等で構成
※ 計画案の作成・ブラッシュアップをする
※ 実現に向けた実証を行う

ウォーカブル推進協議会

- アイディア出しやコンセプトの合意



ウォーカブルについて

■ウォーカブルについて

- 令和元年6月26日、国土交通省が設置した「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」において、"WE DO" をキーワードとするこれからのまちづくりの方向性が打ち出されました。ウォーカブルは、そのうちの1つになります。

Walkable(ウォーカブル)…歩きたくなる

Eye level(アイレベル)…まちに開かれた1階

Diversity(ダイバーシティ)…多様な人の、多様な用途・使い方

Open(オープン)…開かれた空間が心地良い

- 福島市では下記エリアを「ウォーカブル推進区域」として、進めています。

「人」中心のまち

緑・広場空間
の充実



歩行者空間
の充実

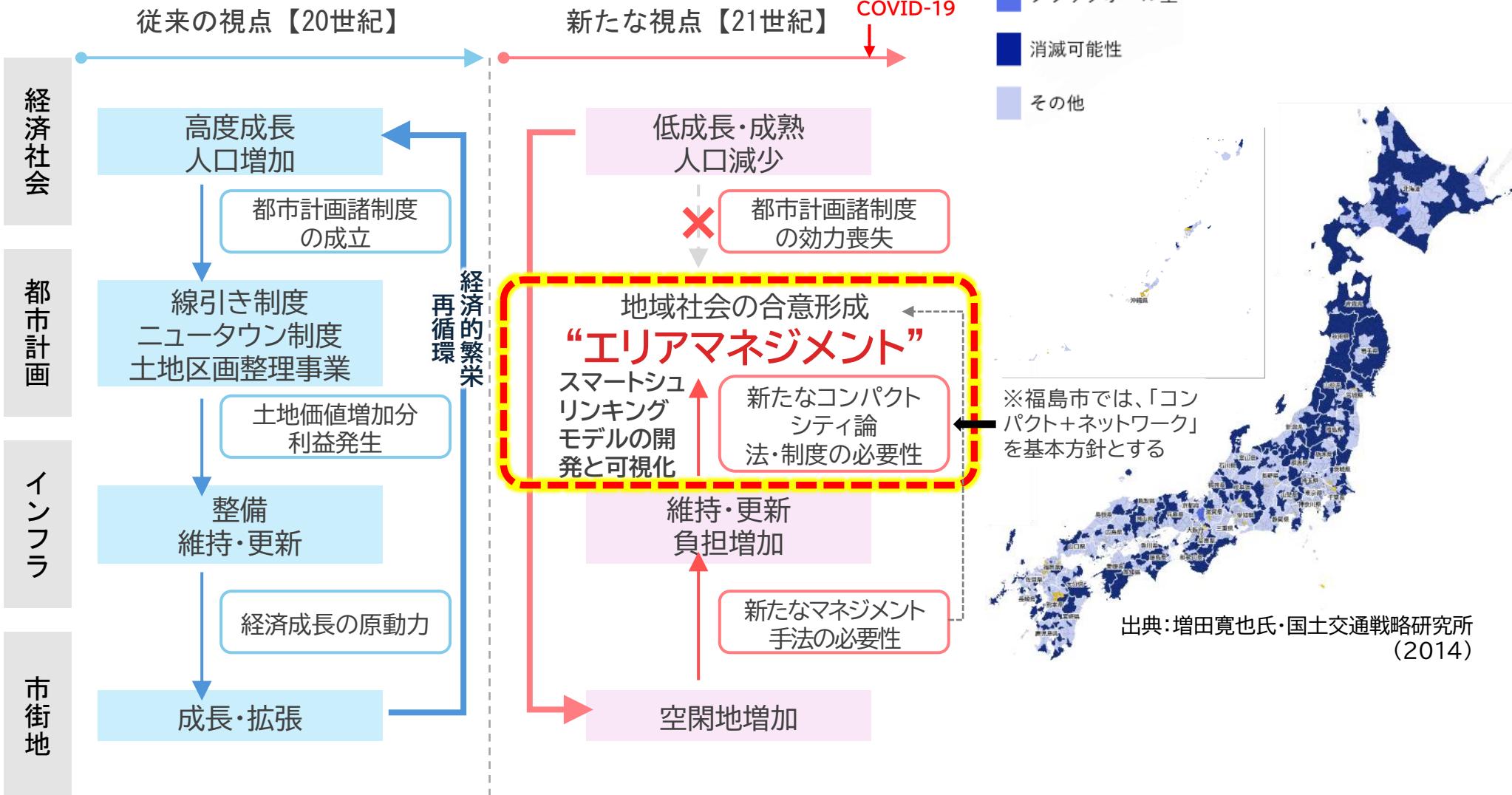
福島市のウォーカブル推進区域



出典:国土交通省ウォーカブルポータルサイト

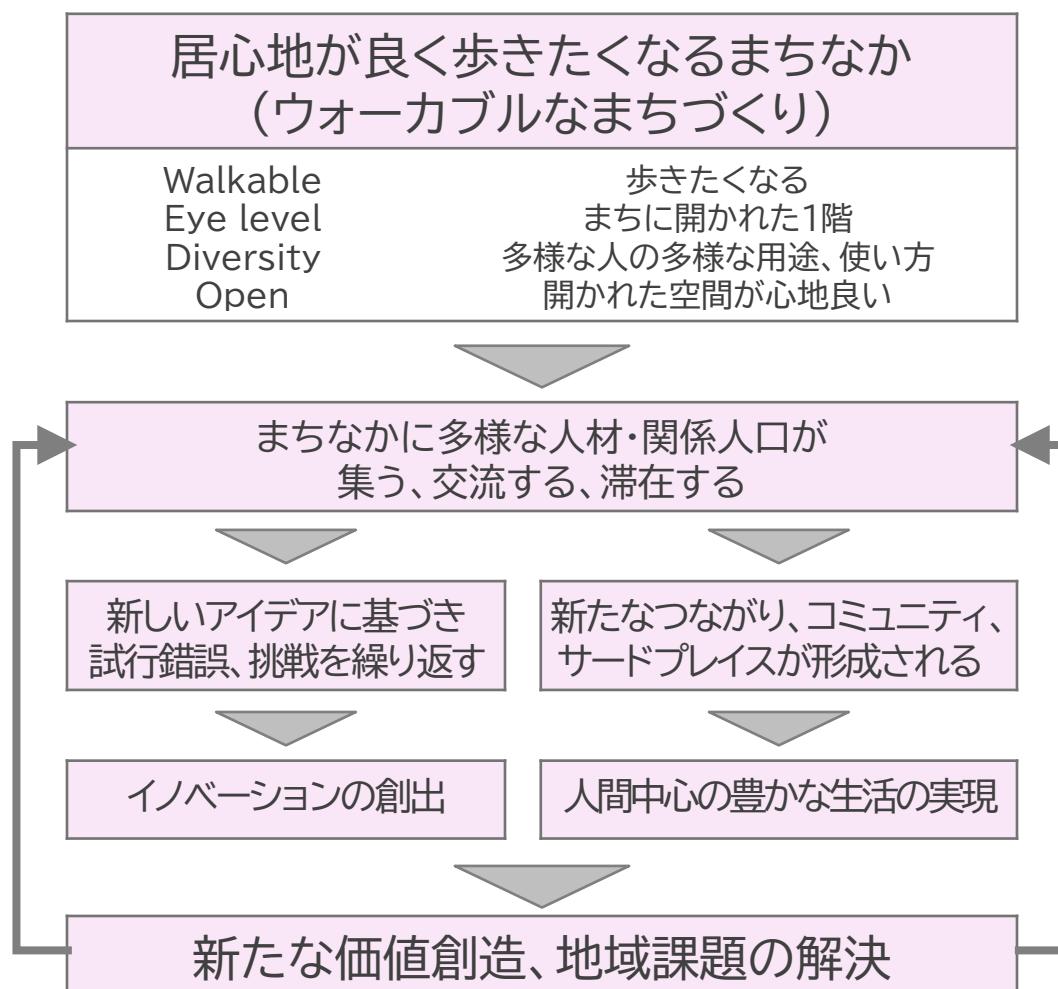
ウォーカブルなまちづくりの必要性

地域がまちの方針を決めなければいけない時代に



ウォーカブルなまちづくりの必要性

ウォーカブルなまちづくりの効果



▶ 単に「歩道が広い」「段差がない」という物理的な「歩きやすさ」ではなく、「そこにいるだけで楽しい」「誰かと話したくなる」「つい立ち寄りたくなる」という、人の気持ち(居心地)を重視しているのが特徴。

▶ 人口減少による まちの余白※を、官民連携で活用し、新たな価値を想像する仕組み。

※空き地・空き家・空き店舗といった低未利用不動産、道路や広場といった公共空間を含む

▶ 地域が主体となった取り組みが重要。

これまでの開催経過報告

まちみらいセミナー -第1回-

日 時

令和7年11月18日(火)18時半～20時半
@ラコパふくしま

参加者

66名



宋 俊煥氏



三輪 祐子氏



追沼 翼氏

内 容

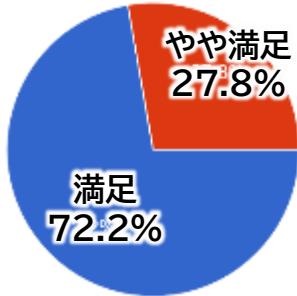
1. 福島市のまちなかの動きについて(福島市都市計画課)
2. 都市デザインとウォーカブル(山口大学 大学院創成科学研究科 教授 宋 俊煥氏)
3. 実践者による事例紹介

- ほこみちを活用した商店会の再構築((株)三輪興産 取締役 三輪 祐子氏)
- 民間事業者から考えるウォーカブルなまち((株)オブザボックス 代表取締役 追沼 翼氏)

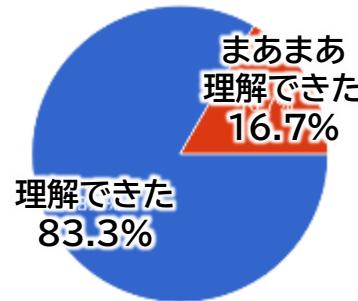
これまでの開催経過報告

まちみらいセミナー 参加者アンケート

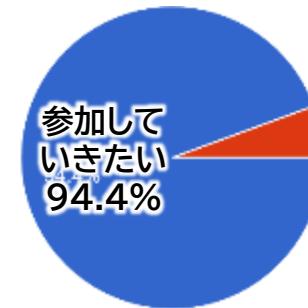
全体の満足度



ウォーカブルなまちづくりへの理解



今後のまちなかまちづくりに参加したいか



ウォーカブルなまちづくりに重要なこと

1. 居心地の良さの追求(77.8%)
2. 地域への活力創出(61.1%)
3. 車中心から人中心への転換(38.9%)

今後の福島駅周辺のまちづくりへのご意見・アイデア

- このようなセミナーを若者対象にもっと行って欲しい
- 空き駐車場を活用し、閉店後の夜みんなで集まれるところがあるといい
- バス停での待ち時間で出来ることがありそう
- 若者に昭和がブームになりつつある。晩ごはんの材料がそろう路地を再現したい
- 気軽に休めるベンチやテーブルなどがあれば滞留時間も増えてまちの賑わいや活性化につながる
- 古閑裕而当時の面影を残した街並みにするなど他の街にはないオリジナリティ
- 店舗の窓辺を小さな展示スペースとして活用し、地元作家や学生の作品を紹介する

- 行政主導ではなく、地域住民や企業主体的に考えることに意味がある
- 市としても課や部局を超えて連携を図っていただきたい
- もっと広域を対象に取り組んでほしい
- 福島駅→駅前通り→パセオ→あづま通り→福島駅といった環状のウォーカブルが出来たらワクワク
- 地域と行政の連携し、新しい意見やアイデアを取り入れる柔軟性が今後さらに必要
- まちなかの事業者や飲食店の課題・悩みを、街の“ミッション”として公開し、市民や来街者が挑戦者として参加できる仕組み
- まちなかに点在する余白(隙間、レンタルスペース)を、市民や来街者が自由に使える“小さな挑戦の場”としてカタログ化し、開放

これまでの開催経過報告

まちごとデザイン戦略会議 -第1回-

日 時

令和7年12月9日(火)19時～21時
@福島市市民センター

参 加 者

19名

内 容

1. 趣旨説明 まちごとデザイン戦略会議とは？
2. 参加者自己紹介
3. ワークショップ「10年後に自分が実現したいまちなかの風景を考える」
4. 今後の進め方について
5. その他事務連絡(メンバー間の連絡調整方法、情報発信、協議会への参加について)



これまでの開催経過報告

ワークショップ “10年後に自分が実現したいまちなかの風景を考える”

グループA

10年後の風景・キーワード

(ブランド・イメージ)

- 選ばれるまち
- 新しいチャレンジに取り組む、社会課題解決のフロンティアになっている
- 信夫山が日本三大夜景になっている、吾妻小富士が人気になっている

(アクティビティ・風景)

- 市民がたくさんまちを歩いている、散歩してると元気になるワクワクする
- 週末をまちなかで過ごしている
- こども連れ・ファミリーが町を活用している
- 県外の友だちをドヤ顔で連れまわしている
- 個人店のコーヒーを飲んで歩いている
- 桃愛あふれる市民・事業者が来訪者に桃を薦めている
- 桃のテイクアウトメニューを食べ歩きしている
- 蛇口からフルーツジュースがでてくる

(空 間)

- 環境にやさしいまち
- 緑の多いまち、芝生や木陰で休んだり、食事している
- すきまが埋まっている
- 建物の再編集が進み、個店が集積している

テーマ・コンセプト

まちなか全体のシェア

(人材や場所等資源)
で、商店が場所に
捉われず連携！

3年後までの取組

まずはハード整備を
伴わない内容で商店
同士の連携を実験



これまでの開催経過報告

ワークショップ “10年後に自分が実現したいまちなかの風景を考える”

グループB

10年後の風景・キーワード

(ブランド・イメージ)

- ・福島が一番という誇り・愛着を持っている
- ・帰ってきたいと思える福島になっている

(空 間)

- ・文化通りでマルシェ
- ・文化通りを車が通過しないようにする
- ・駅前を学生や若者の集まる場所にする
- ・阿武隈川の水辺や水上を活用(屋台、散歩、ボート)
- ・夏の暑さ対策(日陰)

テーマ・コンセプト

福島の歴史・文化を活かした取組で、駅前と文化通りに回遊性を生み出す！

3年後までの取組

- ・個店の魅力やまちの歴史・魅力を知ってもらう(アプリで情報発信)
- ・阿武隈川の安全確保(草刈り)



これまでの開催経過報告

ワークショップ “10年後に自分が実現したいまちなかの風景を考える”

グループC

10年後の風景・キーワード

(ブランド・イメージ)

- ギャンブルのまち
- 新しい店がどんどん増えている
- 新陳代謝のある元気なまち
- 観光客がまた来たいと思えるまち
- 地元への誇りを感じる

(アクティビティ・風景)

- 路上ライブがそこら中で行われている
- 飲食店の軒下でたたずんでいる
- アクティビティが店の外で行われている状態
- 外国人と市民が肩を組んで笑っている

(空 間)

- ほかでは見たことのない駅前
- 歩行者中心のまち(車両が入ってこないまち)
- 歩いて回れる交通インフラが整ったまち

テーマ・コンセプト

ウォーカブル×○○！

- アルコール
- 時間帯(朝・昼・夜)
- エンターテイメント
- 健康・スポーツ
- ペット
- 休憩
- 広域連携(郊外の自然等魅力)

3年後までの取組

- 既存の都市公園の活用・魅力向上(例:新浜公園)
- 交通インフラ社会実験(例:自動運転)



2. まちなかの現状について 人流調査

①位置情報データ(KDDI Location Analyzer)

携帯電話のキャリアデータをもとに、まちなかの通行人口を福島市の全人口ベースで推計することで、属性別の実態を比較可能な形で整理することを目的とする。

- ✓ エリア:吾妻通りとパセオ通りの交差点を中心とした半径400m
- ✓ 対象期間:2025年10月1日~31日(1か月間)
- ✓ 集計対象:通行人口…エリア内の道路を徒步移動する人
- ✓ 集計方法:全人口推計(KDDIの利用割合を考慮し、福島市的人口規模を推計・集計)



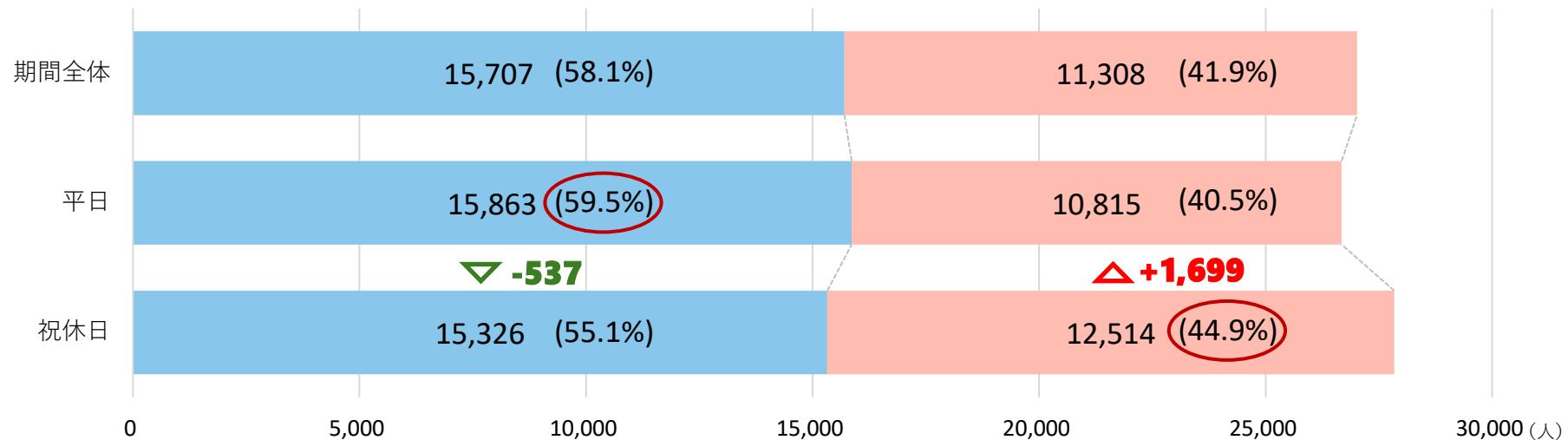
	1日あたりの通行人口
期間全体	27,015人
平日	26,678人
祝・休日	27,840人

2. まちなかの現状について

人流調査 ①位置情報データ(KDDI Location Analyzer)

(1)エリア内の1日あたりの通行人口について:性別

- 平日は男性が59.5%を占めており女性よりやや多い。
- 祝休日は延べ通行人口は増加しているものの、男性の通行人口は減少、女性の通行人口が増加しており、女性の割合が44.9%に増加している。



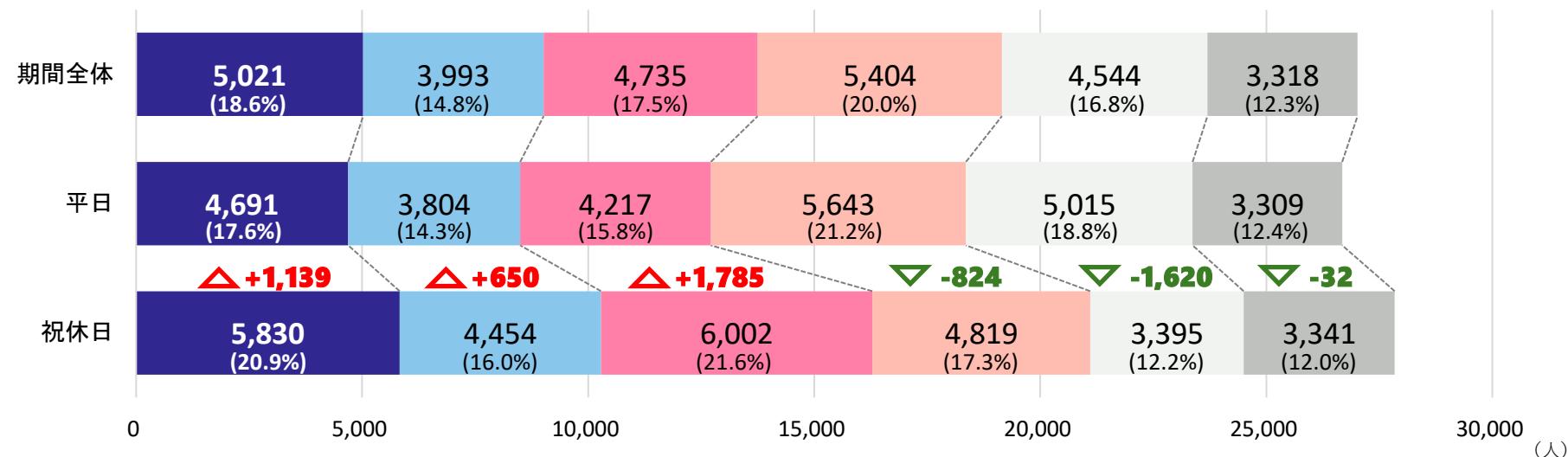
人 (%)	男性	女性
期間全体	15,707人(58.1%)	11,308人(41.9%)
平日	15,863人(59.5%)	10,815人(40.5%)
祝休日	15,326人(55.1%)	12,514人(44.9%)

2. まちなかの現状について

人流調査 ①位置情報データ(KDDI Location Analyzer)

(2)エリア内の1日あたりの通行人口について:年代別

- 期間全体の1日あたりの平均では50代が最も多く全体の20%を占めており、20代、40代が続いている。
- 平日と祝休日を比較すると、20代・30代・40代は平日に比べ祝休日で増加、一方で50代・60代は祝休日の通行人口が大幅に減少している。



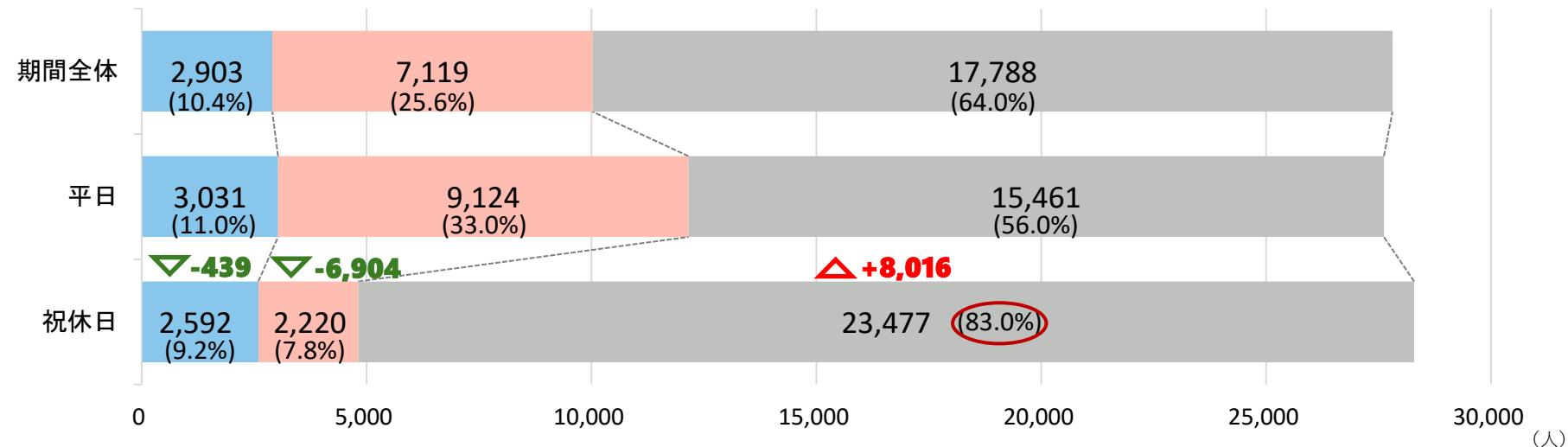
人 (%)	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
期間全体	5,021人 (18.6%)	3,993人 (14.8%)	4,735人 (17.5%)	5,404人 (20.0%)	4,544人 (16.8%)	3,318人 (12.3%)
平日	4,691人 (17.6%)	3,804人 (14.3%)	4,217人 (15.8%)	5,643人 (21.2%)	5,015人 (18.8%)	3,309人 (12.4%)
祝休日	5,830人 (20.9%)	4,454人 (16.0%)	6,002人 (21.6%)	4,819人 (17.3%)	3,395人 (12.2%)	3,341人 (12.0%)

2. まちなかの現状について

人流調査 ①位置情報データ(KDDI Location Analyzer)

(3)エリア内の1日あたりの通行人口について:居住属性別(居住者/勤務者/来街者)

- 期間全体は居住者が全体の10.4%、勤務者が25.6%、来街者が64.0%を占めている。
- 祝休日の通行人口は、居住者は平日より減少、勤務者も平日より大きく減少するものの、来街者の通行人口が大きく増加し全体の83.0%を占め、全体の通行人口は祝休日が上回っている。



人 (%)	居住者	勤務者	来街者
期間全体	2,903人(10.4%)	7,119人(25.6%)	17,788人(64.0%)
平日	3,031人(11.0%)	9,124人(33.0%)	15,461人(56.0%)
祝休日	2,592人(9.2%)	2,220人(7.8%)	23,477人(83.0%)

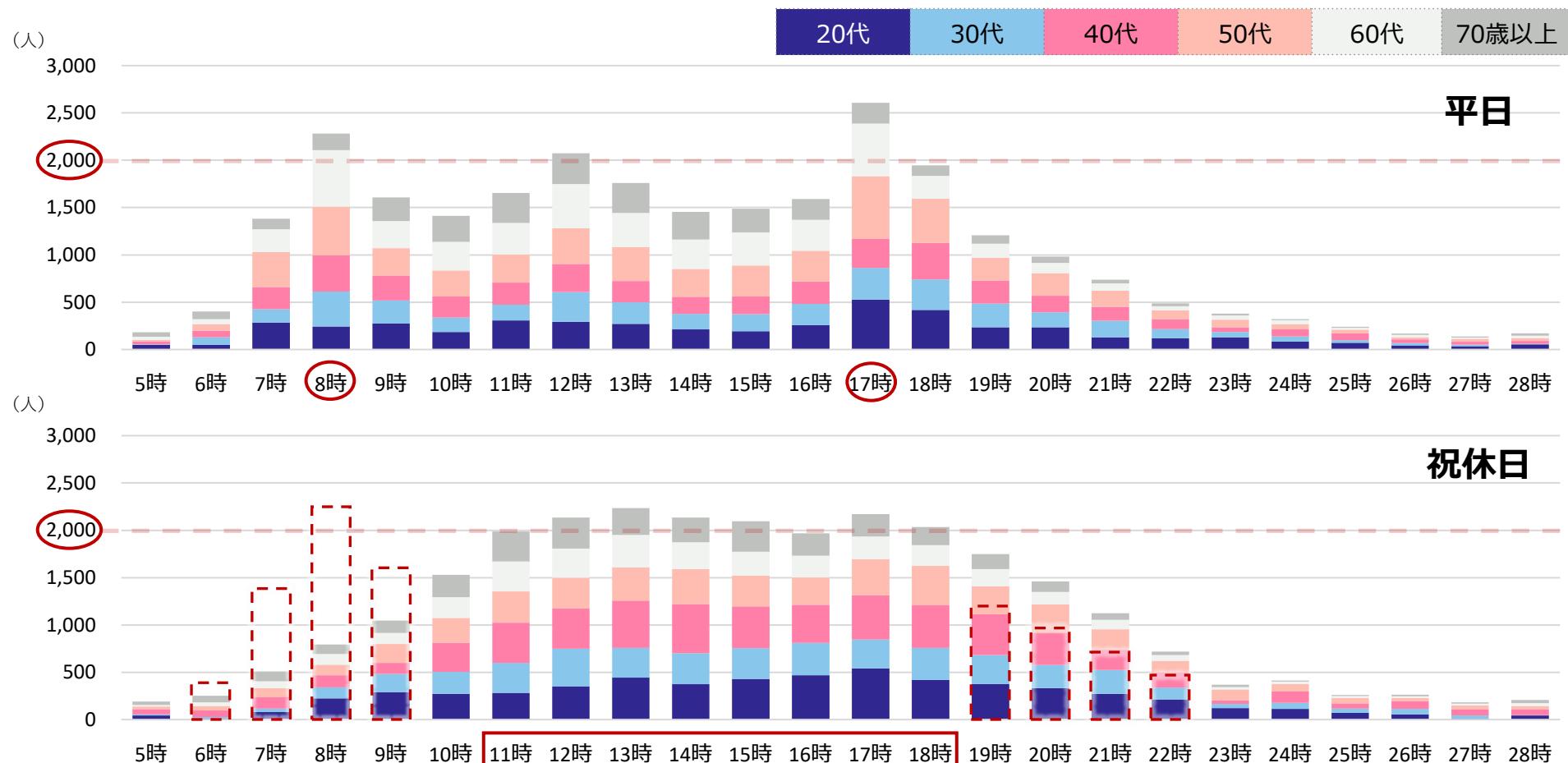
※ 設定エリア内ではほぼ毎日深夜位置情報のある方が「居住者」、日中位置情報のある方が「勤務者」、どちらでもない方を「来街者」と整理している。

2. まちなかの現状について

人流調査 ①位置情報データ(KDDI Location Analyzer)

(4)エリア内の1日あたりの通行人口について:時間帯

- 時間帯別の傾向として、平日は朝の8時、夕方17時がピークとなっている。
- 祝休日は11時-18時は2,000人付近で安定して通行人口が多い。
平日の通行人口と比較すると、祝休日は朝は少なく、夜は多い。

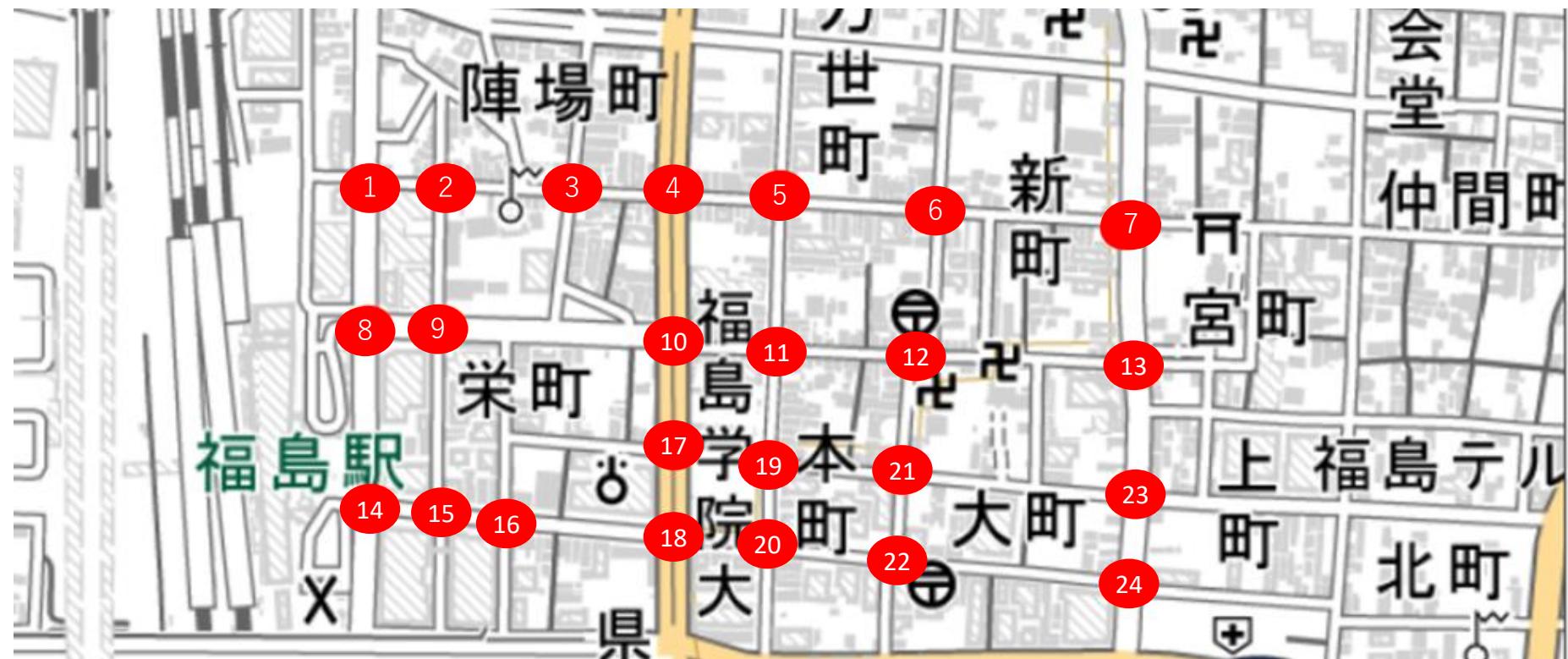


2. まちなかの現状について

人流調査 ②ゲートカウント調査

まちなかの主要交差点において、5分間の方向別通過人数を計測し、通りごとの通行量や移動方向の実態を把握することを目的とする。

- ✓ 対象者:歩行者・自転車
- ✓ 時刻:11時台、13時台、16時台、18時台の4つの時間帯(1つの時間帯に1地点5分の計測)
- ✓ 実施日:【平日】10月23日(木)、【祝日】11月3日(月・祝)※イベント開催あり
- ✓ 調査地点:計24地点

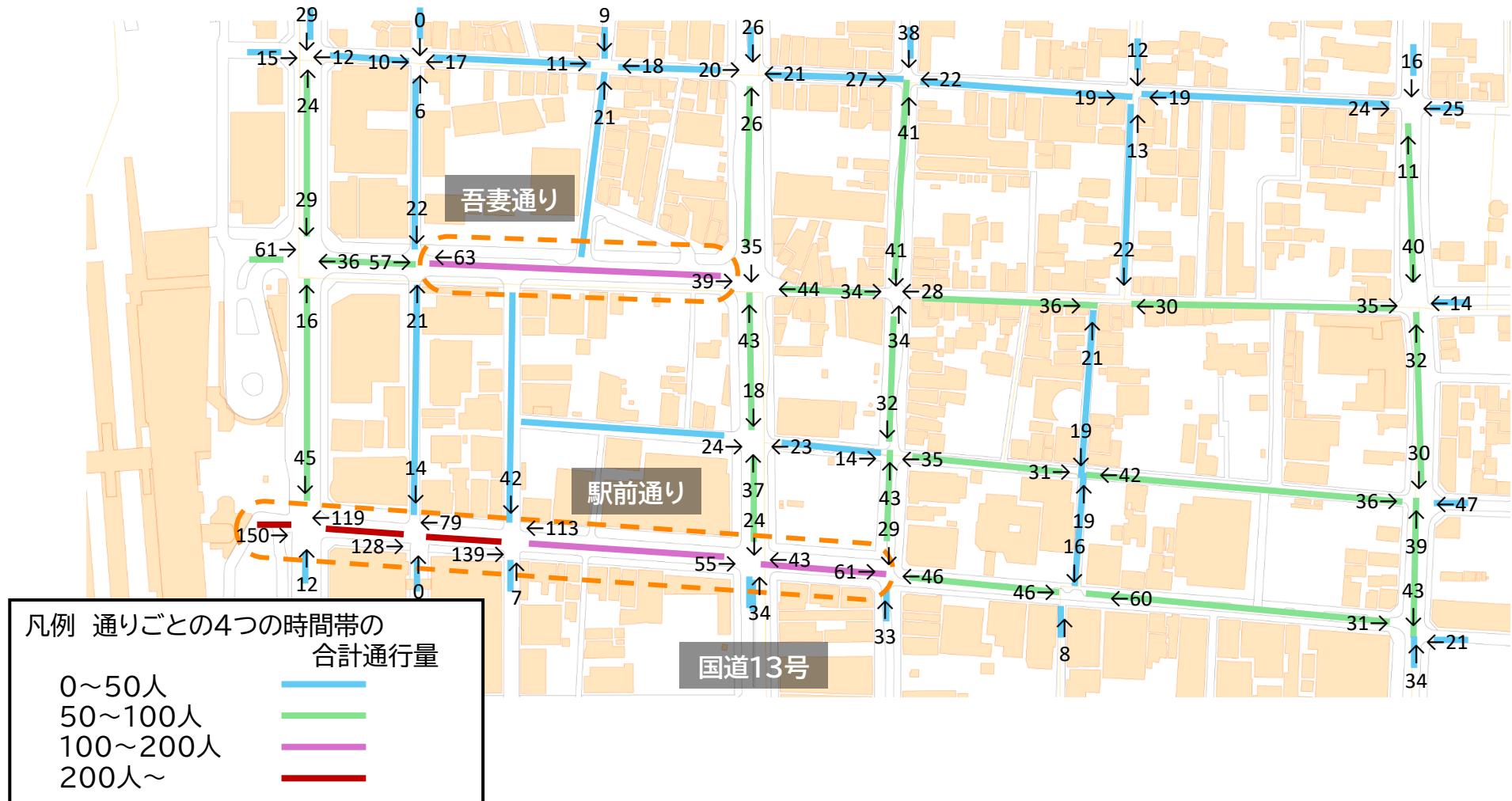


2. まちなかの現状について

人流調査 ②ゲートカウント調査

■ 10月23日(木)各地点の総通行量

- 駅前通り・吾妻通りが通行量が多く、駅前エリアの主要動線となっている。

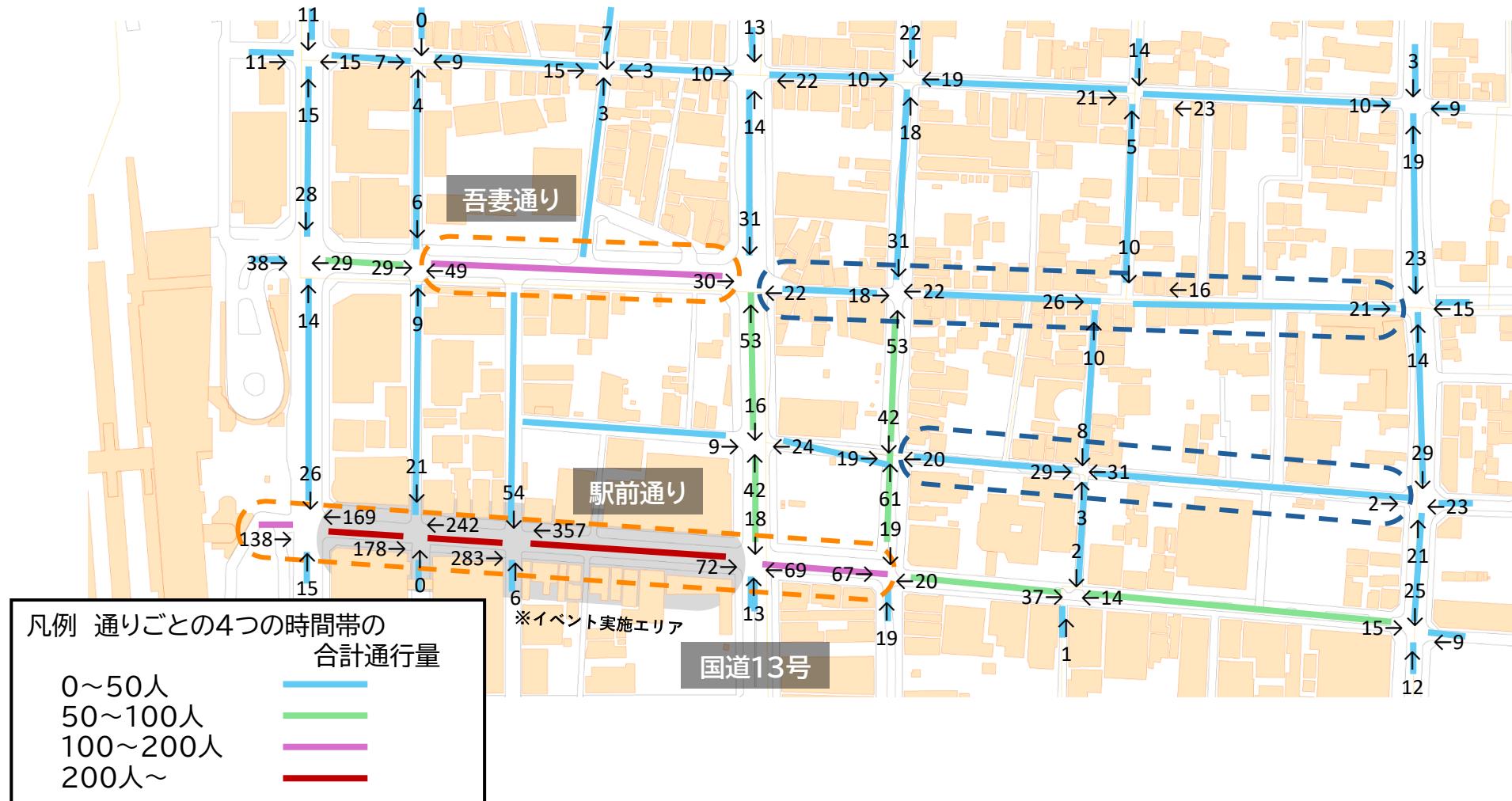


2. まちなかの現状について

人流調査 ②ゲートカウント調査

■ 11月3日(祝・月)各地点の総通行量

- ▶ 平日に引き続き、駅前通り・吾妻通りが通行量が多く、駅前エリアの主要動線となっている。
- ▶ 一方でエリア東側の通行量は平日に比べ減少、特に国道13号以東で東西移動が減少している。

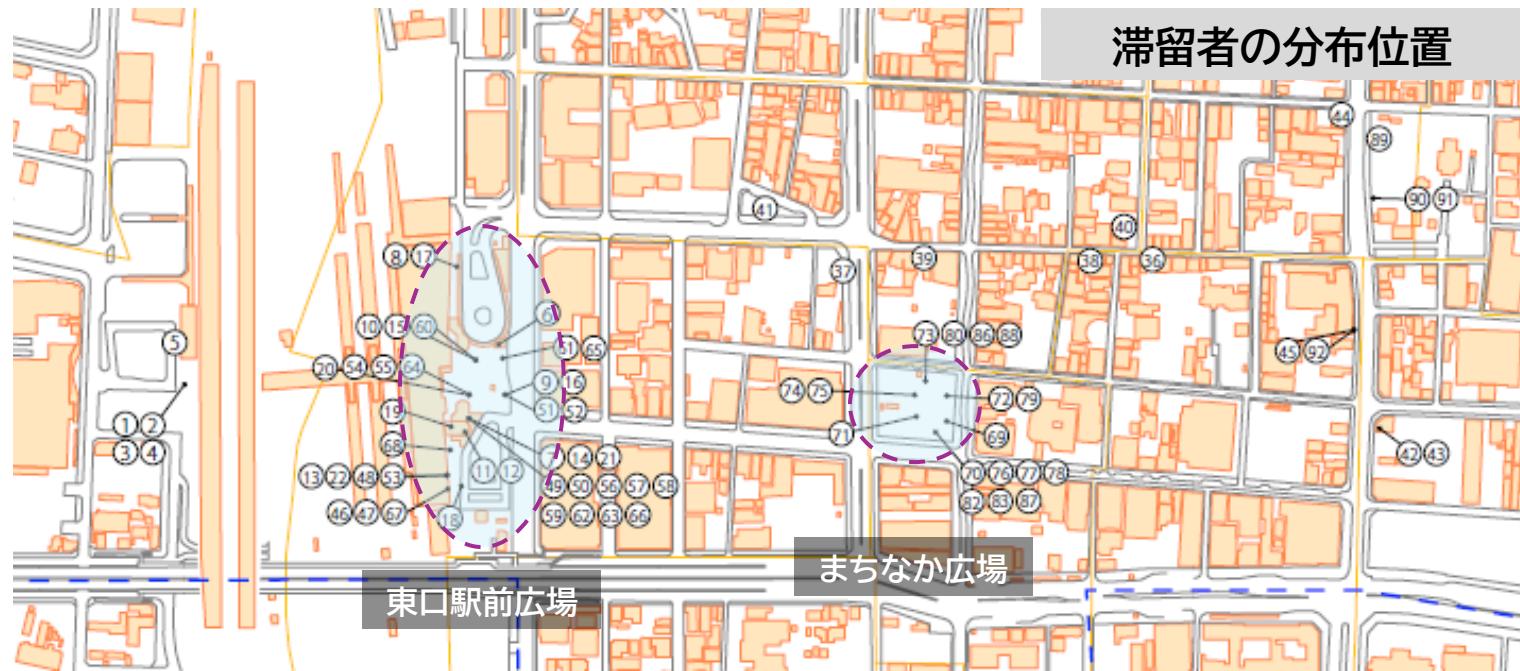


2. まちなかの現状について

人流調査 ③滞留調査

対象エリアにおいて屋外で滞留している人(1分以上同一地点で立ち止まっている人)を対象に、性別・年齢層・個人/グループといった属性や行動の様子を観察・記録することで、滞留行動の分布および特徴を把握することを目的とする。

- ✓ 調査日時:10月23日(木)、11月3日(祝・月) 両日10時-19時
- 滞留行動が多くみられたエリアとしては東口駅前広場とまちなか広場が大部分を占めていた。
- それ以外のエリアでは滞留行動をあまり見ることが出来なかった。



2. まちなかの現状について

人流調査 ③滞留調査

- 今回の調査で確認できた滞留行動で最も多かった「座って休憩」は、全体の約3割を占めており、「立って会話」が17.8%、「待ち合わせ」が16.7%と続く。このことから、立ったままの一時的滞留も、多いことが分かる。
- 多様な過ごし方の視点では、読み物や各種練習などが見られたがその数と割合はあまり多くはない。

滞留行動	数	割合
座って休憩(スマホ操作等)	29	32.2%
立って会話	16	17.8%
待ち合わせ(立ってスマホ操作等)	15	16.7%
座って食事	10	11.1%
座って会話	6	6.7%
お店を眺める/軒先での滞留等	5	5.6%
案内/掲示物観覧	3	3.3%
喫煙	2	2.2%
座って読み物	1	1.1%
ダンス練習	1	1.1%
スケートボードの練習	1	1.1%
バスケットボールの練習	1	1.1%
合計	90	100%

2. まちなかの現状について

SNS等投稿分析

○X(旧Twitter)による投稿傾向

- 直近30日間(令和7年11月19日～12月18日)において、“福島駅前”に関する投稿は321件。
- そのうちポジティブな感情が56%、ネガティブな感情の投稿が44%となっている。
- まちなか広場等でのイベントの告知の内容が大部分を占めており、再開発に関する投稿、ドン・キホーテの出店等の店舗情報の投稿も見られた。
- 福島駅前を含む、要望等に関する投稿は1件のみとなっていた。(芝生広場の要望)
- “福島駅前”をキーワードとした投稿数自体が少ない。多くがイベント等の告知の投稿となっている。

○Instagramによる投稿傾向

- 福島駅前付近の投稿は、珈琲グルメやラーメン店、円盤餃子などのグルメ関連の投稿が多くなっている。
- コーヒーフェス等イベント会場で撮影された飲み物等の投稿は見られたが、イベント外でテイクアウトコーヒーを含むドリンク等が屋外空間で撮影された投稿は見られなかった。

○福島駅前付近での最近の投稿

- 福島駅前付近での最近の投稿においても、クラフトビールやラーメン等のグルメ関連が多い。
- 吾妻通りの建物等を撮影した投稿もあるが、屋外空間の写真はほとんどないというのが現状である。



2. まちなかの現状について

SNS等投稿分析

○公共空間に対する市民の口コミの分析(口コミテキストをAI分析)

項目/場所	福島駅東口駅前広場	まちなか広場	新浜公園
ポジティブ要素 	「歩道が広くて歩きやすい」「意外に綺麗」「(石の椅子などに)座れた」「ストリートピアノ」「ライトアップ/もりりん(キャラクター)」 → <u>ハード面の基礎体力(広さ・清潔感)</u> は評価	「子供が安心して遊べる」「イベント(マルシェ、音楽、街なか一箱古本市など)が楽しい」「街なかの貴重なオープンスペース」「夜のライトアップや雰囲気が良い」「キッチンカーの出店」	遊具の多様性、屋内施設(公園内のふれあい交流センター)の快適さ、管理の行き届いた清潔感
ネガティブ要素 	「平日の夜はかなり寂しい」「駅東西の移動が思いのほか時間がかかる」 → <u>「賑わいのムラ」と「動線の長さ」</u> がネックに	「夏場の日差しが強く、日陰が足りない」「ベンチが硬い、または数が限られる」「イベントがない時の閑散とした印象」「周辺店舗との連動性への物足りなさ」等	駐車場の欠如、夏場の虫(蚊)、一部遊具の難易度
潜在的なニーズ	① 「隙間時間」を快適に過ごせる場所が欲しい ② <u>「平日・夜間」の寂しさを解消</u> して欲しい ③ 「駅東西の移動」を「楽しむ時間」に変えたい	① <u>「日常的な遊び場・子育て支援」</u> へのニーズ(安全・安心) ② <u>「環境アメニティ(快適性)」</u> の改善ニーズ ③ 「イベント依存型」から「日常滞在型」への転換ニーズ ④ <u>「夜間の心理的・情緒的価値」</u> の深化ニーズ	① 全天候型の滞留空間 ② エリアの棲み分け ③ 「手ぶら」と「ついで」の親和性 ④ 衛生・安全管理の可視化

2. まちなかの現状について

アンケート等調査分析

○まちなかに対する市民の意見

活動・行動 に関する意見	回遊性・滞在性 に関する意見	商業施設 に関する意見	交通機能 に関する意見
-----------------	-------------------	----------------	----------------

中心市街地の活性化に関する意見	ウォーカブルに関する意見
<p>①中央地区住民に聞いた地区のまちづくりに重要な要素 ※福島市のまちづくりに関する市民アンケート調査より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民活動・コミュニティ活動の活性化 ・ 公園等、緑の拠点の機能充実 ・ 農業の活性化 	<p>①ウォーカブルなまちづくりに重要な要素 ※まちみらいセミナー#1 参加者アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 居心地の良さの追求 ・ 地域への活力創出 ・ 車中心社会から人中心の社会へ
<p>②中心市街地の賑わい創出に必要な取り組み ※福島市のまちづくりに関する市民アンケート調査より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物や飲食店などの魅力的な店舗(個店)の充実 ・ 駐車場の利便性の向上(適正な配置など) ・ 日用品を販売する店舗(生鮮食料品店など)の誘致 	<p>②駅周辺のまちづくりに対するアイディア ※まちみらいセミナー#1 参加者アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 晩ごはんの材料が揃う、あの頃の路地を再現 ・ 気軽に休めるベンチやテーブルの設置 ・ 他のまちにはないオリジナリティ(古閑裕而等) ・ 地域住民や企業主体で取り組んでいく
<p>③中心市街地のまちづくりに対する要望や提案 ※福島市のまちづくりに関する市民アンケート調査より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現役世代への魅力向上(子育て世代がのびのび過ごせる場所、若者の定住に向けた仕事・学校・娯楽の誘致) ・ 回遊性・滞在性の向上(全天候型の居場所、駅東西の往来の利便性向上、四季を感じる緑地・公園) ・ 商業施設の誘致(有名企業、日常利用する施設) ・ 交通機能の強化(公共交通、自転車道、無料駐車場) 	<p>③10年後に実現したい“まちなかの風景” ※まちごとデザイン戦略会議 ワークショップより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人や場所等の資源を皆でシェアして、社会課題解決のフロンティアになる ・ 歴史や文化を活かした取り組みを進めて、また帰ってきたいと思える場所になる ・ 時間帯によって様子が変化する ・ 様々なアクティビティが屋外で行われる

2. まちなかの現状について

①滞留と回遊を促す空間づくり

- ・ 滞留空間の不足: 滞留が見られる空間は「東口駅前広場」と「まちなか広場」に集中しており、それ以外の路上等で「立ち寄る」「その場を楽しむ」といった滞留行動はあまり見られない。
- ・ 動線と回遊性の課題: 歩行者の行動は「駅前通り」や「吾妻通り」などの主要動線に集中しており、滞留行動の傾向からも、移動の大部分が目的地(お店や駅)へ向かうためのものになっていると考えられる。また、全天候型施設といった滞在性・回遊性の高い機能を要望する市民の意見も多い。

②時間帯・エリアに偏りのない賑わい創出

- ・ エリア東西における回遊性向上の余地: 駅周辺に比べエリア東側(国道13号以東)は通行量が少なく、特に祝休日にそうした傾向になる。
- ・ 平日(夜間)の静寂性: SNSや口コミでは「平日の夜が寂しい」という声が多く、市民の意見では住民活動・コミュニティ活動の活性化を重視するものが目立つ。仕事帰りのワーカーや子育て世代、学生も日常的に楽しめる、時間帯に応じた活気や情緒のある場所づくりが求められている。

③日常的な心地よさの向上と環境アメニティの拡充

- ・ 屋外空間の魅力不足: Instagram等のSNSではグルメ(屋内)の投稿は多いものの、まちなかの屋外空間を撮影した投稿は極めて少なく、風景としての魅力が十分に認識されていない。
- ・ 屋外空間の快適性向上の余地: 公園等、緑の拠点機能の充実を要望する市民の意見や、「夏場の日差しが辛い・日影が足りない」「ベンチが硬い・数が少ない」といった口コミがあり、滞在の基本となる快適性(アメニティ)への改善ニーズが示されている。

④日常でも選ばれる場への転換

- ・ 日常的な賑わいの不足: 「イベントがある時は楽しいが、ない時は閑散としている」という評価があり、単発イベントに頼りきらぬ「日常的な居心地の良さ」の創出が求められている。

参考事例調査

①池袋リビングループ (まちなかのリビング化 道路空間利活用の日常化)

- ・主催:グリーン大通りエリアマネジメント協議会(GAM)
- ・共催・協力:豊島区、地元企業、商店、施設など
- ・活動エリア:池袋駅東口 グリーン大通り／南池袋公園
- ・コンセプト:「まちなかリビングのある日常」



まちの道路・広場を、人が歩きたくなり、
集い、くつろげる空間にすることを目指す。

単発イベントに留まらず、日常的な居心地の良い空間づくりに向けた実験を継続。
利用者の行動変化の把握や、公共空間の在り方の再定義に貢献。
・社会実験の結果を踏まえた ストリート ファニチャー常設化の検討
・日常の活動としての位置づけを拡大
・地域の課題解決と都市の持続可能な空間活用の加速
→「都市をみんなのリビングルームにする」という理念の実現に向け、現在も多様な取り組みが続けられている

道路空間の利活用を日常化することにより…
 ・自動車中心の都市から歩行者中心の街へ転換
 ・日常的に人が立ち寄り、くつろぎ、交流する場を創出
 ・街の回遊性と賑わいを創出
 ・公共空間を街のリビングルームのように感じる日常に
 ⇒地域コミュニティや経済の活性化に
つなげることが狙い

1. 概要

4. 意義・成果



2. 目的・理念

3. 主な取り組み

①ストリートファニチャー設置
・社会実験



③ 地域連携・魅力発信



②市場・マルシェの開催

参考事例調査

②姫路市 姫路駅前大通りの整備(社会実験スタート)

姫路駅前大通り(大手前通り)、姫路駅と姫路城を結ぶ大手前通りについて姫路市のメインストリートとして、潤いと賑わいを創出する道路空間のあり方を検討し、再整備を実施



1. 概要

- 「通過動線」から「体験動線」へ
(歩行者主体の空間)
- 駅前～城前の「連続した公共空間」化
(広場を含む一体空間)
- 官から民へ「使いこなす主体」の転換
(ストリートマネジメント)
- 観光と日常の2軸空間



4. 成果



2. 目的・理念

- 都市基盤機能の強化⇒駅前広場・道路空間の整備を通じて、交通・回遊性の向上を図る。
- 景観価値の向上⇒姫路城へと続く視認性の高い通りとして、歴史的価値と都市空間の美観を強化。
- 歩行者中心の空間創出⇒歩行者・公共交通優先の道路構成による安心・快適な歩行環境の整備。
- にぎわい創出・都市魅力の向上⇒通り沿いの滞在と交流を促進する公共空間の創出。

3. 主な取り組み



[主な整備内容]

- 歩行者の空間と自転車の空間を視覚的に区分(舗装・サイン)
- 樹木の間伐／歩道部急勾配の解消・バリアフリー整備
- 歩道拡幅／ウッドデッキ・ベンチ等休憩空間の整備
- 車道照明・歩道照明・景観照明の整備

参考事例調査

③山形市(パークレットの社会実験)

駅前や中心市街地の通り(すずらん通り、シネマ通り、山形駅前大通り等)において、道路空間や路上駐車場、歩道の一部を活用し、人が滞在・交流できる空間へ転換する社会実験



路上駐車帯を活用した滞在空間の創出といった、比較的簡易的な手法を用い、日常的な通行空間を「居場所」へ変える可能性を検証

1. 概要

- 得られた成果・知見
 - 短時間滞在空間として有効
 - 点在的に数を増やすことへのニーズが高い
 - 自動車交通への心理的抵抗は一定程度低減
 - 高コスト整備を行わず、通りの印象は変わる
- 今後の展開方向
 - パークレット常設化よりも、安価・簡易な什器設置による展開
 - 商店街主体による時間帯で使い方が変わる歩行者天国の強化
 - 大学等との連携による文化・芸術イベントとの融合

4. 成果

“歩きたくなるまちなかづくり／人を中心とした道路空間への転換”
 ・車中心に使われてきた道路・公共空間を、人が主役の空間へ再編
 ・通過交通中心の利用から、滞在・交流・活動の場への転換
 ・ウォーカブルな空間創出に向け、実験を通じて検証しながら段階的に進める姿勢

2. 目的・理念



3. 主な取り組み

歩行空間の滞在化
(すずらん通り・駅前大通り)



参考事例調査

④郡山市「パークブル(parkable)」社会実験 (=まちなかの公園化)の取り組み)

- ・実施主体:こおりやま公民協奏エリアプラットフォーム
- ・活動エリア:郡山市駅前一丁目・フロンティア通り
- ・コンセプト:駅前通りを公園のように心地よい滞在空間に変えるトライアル実験
⇒公共空間を使う新たなモデルを検証



① 公共空間の再定義

- ・日常的な通過空間としての“道路”ではなく、集い・休憩・交流が生まれる場(公園的空間)へ転換する可能性を探る。

② 地域の魅力づくり

- ・駅前中心部の活性化、来街者の滞留時間延伸や商店街・周辺施設との回遊性向上につなげる。

③ 民間・地域と行政の共創

- ・「こおりやま公民協奏～」の枠組みで多様な主体が連携した社会実験としての価値創出を目指す。

1. 概要

4. 意義・成果

・郡山の中心市街地を「parkable(パークブル)」つまり、公園のように心地よく過ごせるまちへと変えていくための社会実験。

・普段は通り道であるフロンティア通りで、マルシェを開催したり、ストリートファニチャーを設置したりすることで、わくわくしながら心地よく歩ける空間を創出。

2. 目的・理念

3. 主な取り組み

① ストリートファニチャー設置

- ・ベンチやテーブルなどを配置し、歩行者が立ち止りやすい空間を創出。

② マルシェ／小規模イベント

- ・地元店舗やクリエーター出店によるマルシェ開催や交流機会づくりを実施。

③ 来場者アンケート等の実施

- ・利用者の行動や滞在・満足度を測るために意見聴取を行い、次の施策検討に活かす。



参考事例調査

⑤春日部市「ほこみち(歩行者利便増進道路)」 (駅前にぎわい創出と道路空間の活用)

- ・主催:商店会連合会(粕壁商店街NEXTプロジェクト)+春日部市
- ・活動エリア:県道春日部停車場線(春日部駅東口)
- ・コンセプト:「歩くだけの場所」から「楽しむ場所」へ転換
⇒イベント化ではなく日常的な賑わいへ



①街なか回遊性の向上

- ・歩道利用の増加・滞留時間增加によって、商店街や周辺施設への回遊促進が期待される。

②にぎわいの持続化

- ・単発イベントではなく定常的な賑わいの創出を目指すことで、中心市街地としての魅力を高める。

③歴史的中心地の再活性化

- ・工事期間中に賑わいを継続し、後の高架完成後も活気のあるまちづくり基盤形成につなげる。

1. 概要

4. 意義・成果

①駅前中心地のにぎわい創出

- ・鉄道高架工事に伴う周辺商業環境の変化に対し、人の流れと滞在の機会を確保し、商店街・中心市街地の活性化につなげる。

②道路空間の新たな価値づくり

- ・道路を「通行のための空間」から交流・休憩・購買・イベントの場へと転換。

歩行者が自由に楽しめる「新しい日常の公共空間」を模索。

2. 目的・理念

3. 主な取り組み



①定期的な屋台・夜市イベント

- ・毎月第2・第4金曜日を中心に「かすかべ夜市」等を開催。地元飲食店・商店による屋台出店で、駅前歩道がグルメや交流の場となる。号外NET春日部市+1

②通常イベント以外の季節催し

- ・夏の「ほこみち夏の陣」や冬の「ほこみち冬の陣」など、季節イベントとの連動によるにぎわいの創出が行われている。